

ぱびるす

聖学院大学総合図書館

第40号 (2005年4月) 新生歓迎号



ある図書館での再会

鷓沼裕子

ゆふぐれしづかに いのりせんとて
よのわづらひより しばしのがる

現行讃美歌の319番に少し形を変えて残っているこの詩の原作者は、最初に来日した宣教師のひとり、S.R.ブラウンの母フィーベ・ブラウンである。翻訳者は、日本の初期プロテスタント・キリスト教界のリーダー・植村正久で、作家島崎藤村がこれを恋愛詩に作り替えていることでも知られる名訳である。

2003年度の日本文化学科の卒業生・Yさんは、中学生のころ、ある少女雑誌でこの詩と出会い、その雰囲気魅せられた。「何て美しい詩なんだろう、とその時思った」とYさんは述懐している。それ以来、植村正久の「祈り」は、Yさんの憧れとなった。

さて成人して聖学院大学に社会人入学をしたYさんは、図書館の書棚の一隅に『植村正久著作集』を見つけ、はからずもここで少女時代からの“憧れの人”と再会することとなったのであった。そしてこの植村正久という人物が、日本のキリスト教史上に名を残す神学思想家であり、かつ日本における教会形成の指導者であったことを知った。

その後、Yさんは私のもとで植村の著作を読み始め、研究を深めていき、その成果を「植村正久の祈りについて」というすぐれた卒業論文にまとめられた。

Yさんの卒論の特色は、植村正久の思想を、彼の「祈り」に焦点を当てて読み解いたところにある。植村の世界は、人間の生きる現実の世界と神の支配する「偉大崇高な世界」からなる。そして、罪によって神の世界から「隔絶」されている人間が、いかにして神との正しい関係を回復し、人としての生き方を全うするかということが、植村のめざした究極の目標であった。

私自身は、人間の側から神の高みに上昇しようとする植村独自の「志」が、この二つの世界をつなぐものと見た。しかしこの解釈によると、植村の宗教性よりもむしろ「武士の子」としての倫理性がクローズ・アップされる結果となる。

これに対して、Yさんの論文の独自性は、人間が神の支配する世界に達する手立てとして「祈り」の重要性に着目したところにある。まさにこの点を丹念に掘り下げたことによって、Yさんの論文は、宗教家としての植村の敬虔な側面をとらえることに成功した。

Yさんの卒論は、大学生にも十分にオリジナリティのある仕事をする可能性があることを示す一つの事例でもある。そしてYさんの場合その研究の出発点は、“憧れの人”との図書館での再会にあったことを強調したいと思う。

図書館は、数知れない幸いな出会いのチャンスが待っている宝庫である。そして図書館のカウンターは、このわくわくするような未知の世界への入り口である。さらにつけ加えれば、図書館の係りの方々は、この世界への皆さんの水先案内人なのである。

学生の皆さん、とくに新生の皆さんには、この図書館という魅力に満ちた世界をフルに活用して、数々の幸いな出会いを体験してほしいと願っている。

(2005年3月末まで 日本文化学科教授)

図書館ツアーと オリエンテーション受付中!

* 図書館ツアー：館内を職員が案内します。

* 図書館オリエンテーション

- ・初心者向け：本の探し方
- ・中級者向け：文献の探し方
データベース紹介
- ・上級者向け：論文作成の援助

どちらも図書館カウンターおよびオンラインで
申込みを受け付けています。

味読、熟読、愛読

新入生のみなさんへ

古谷野 亘

読書について考えてみた。味読（味わいながら読む）、熟読（意味をよく考えながら読む）、愛読（好きでくり返し読む）など読書にかかわる熟語は多い。しかも、どちらかというポジティブ（肯定的）な感じの言葉ばかりである。乱読（手当たりしだいに読む）とか積ん読（買うだけで読まない）といった言葉もあるが、これらは主に自分を卑下して言うときに使う言葉で、他人から見れば読書家、愛書家ということになるだろう。

「趣味は読書です」などと言われると、何となく穏和で物静かな、教養ある人を思い浮かべてしまう。実際には、「無趣味です」と言っているのと同じなのに、である。本に親しみ、「趣味は読書です」と言えるようになりたいものである。

しかし自分自身のことを考えてみると、とても「趣味は読書です」などと言える状態にはないと認めざるをえない。もちろん、まったく本を読まないわけではない。日本人の平均よりは読んでいるだろう。しかし、味読・熟読とは縁がないし、音読（声を出して読む）も小学校以来やっていない。私の場合、読書は趣味ではなくて、商売の一部になっているのである。

大学教員の本業は研究である。それも、プロの研究者としての研究である。それは、すでにある知識の上に新たな知識を付け加えるという営みである。大学の授業は、教員が自分で発見した知識と、そこに至るプロセスを語るものでなければならない。教員は、自分で発見した真理を教室で告白（プロフェッス）するから大学教授（プロフェッサー）なのであって、他人が発見した知識をかみ砕いて伝えているだけならただの教師（ティーチャー）である。たとえて言うなら、大学教員は自分で作った作物を売っている直販農家で、他人が作った作物を売るだけの小売商であってはならないのである。大学教員の価値は、その人がどれだけ人類共有の知識を増加させるような研究をしてきたかによって決まる。授業に出たら、担当教員がどれだけ自分で得たオリジナルな知識を語っているかをまず確認するとよい。市場で買って来た商品だけを並べていたなら、その店はハズレで

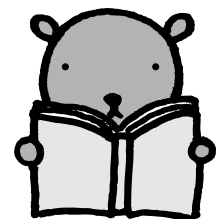
ある。

研究は、人類共有の知識のストックに新たな知識を付け加える営みだから、すでに知られていることをまず知っておかなければならない。すでに知られていることは本や論文に書かれている。そこで本や論文を読む作業がまず必要になる。最近の私の読書は、もっぱらこれになっている。

テーマが決まっているから乱読になることはない。しかし、味読や熟読とは大いに異なり、重要なところだけを拾い読みしていくようなことが多い。趣味の読書とは違って、楽しいことより辛いことのほうが多い作業である。小さな文字で書かれた文章と数字を大量に、短時間で読んでいくのは大変である。しかも、読んだあげくに、自分の“発見”がすでに知られていたことだとわかって落胆することも少なくない。しかし、これは研究をする人間の宿命でもある。

新入生の諸君には、大学という知識の創造の場に入ったことをまず理解してほしい。教え方（たとえば黒板の使い方）のうまい教員が、よい大学教員なのではない。一緒に遊んでくれるセンセイがよい大学教員なのではない。新しい知識を生み出すという営みを続けている教員がよい教員なのである。そして諸君には、そのような教員と並んで知識の創造に向かうことが期待されている。その第一歩は、今までに何が知られているかを知ることである。大学図書館は、すでに知られている知識の宝庫である。図書館にある専門的な本や雑誌を読めるようになるには時間がかかるし、努力も必要である。大学生活を終えるときには、何かひとつの事柄について、すでに知られている知識は身につけ、新しい知識の創造に向かって自力で進めるような人になってほしいものである。

（総合図書館長，人間福祉学部教授）



総合図書館は大学生生活の伴走者

101J504 大門 祐子

2年前、聖学院大学に編入学して以来、大学図書館は私の大学生活にとって、とても比重の高い場所でした。

大学入学前、ある検定試験の受験勉強のために、毎日地域図書館に通っていたことがあります。地元の図書館はいつも満席で、席の確保自体が困難でした。そのため落ちついて勉強できる穴場を探して、他区の地域図書館まで通っていました。

それに比べると大学図書館は夢のような好条件です。まず、閲覧だけでなく、学習室でもあること。机が大きくて、資料を一杯広げて調べ物などができること。休憩したいときは、隣の4号館食堂でお茶を飲んだり、食べたりできること。

そういったハード面だけではありません。もしも読みたい本が大学図書館にない場合、リクエストをすると、買ってもらえます。私は一度、数年前に発行された、発行部数の少ない本をリクエストしたことがあります。司書の方が古本屋まで探してくださっていたことを知り、感動したことがあります。また、他大学などの図書館から本や資料を取り寄せてもらうこともできます。司書の方々の仕事は目には見えにくいものですが、私たちの大学での学習を陰で応援し、支えようとしてくださっている、伴走者のような存在です。新入生の皆さん、何でも司書の方に相談して、早く図書館を使いこなせるようになってください。情報誌『ぱびるす』にもぜひ目を通してください。

もう一つ私にとって思い出深いことは、ライブラリー・アシスタントのアルバイトをさせていただいたことです。最初の頃は、返却された本を戻す書架の位置を探すだけで精一杯でしたが、慣れてくると本を戻しながら、こんなところにこんな本があるのか、と思いながら仕事ができるようになりました。2階から4階の書架を往復する中で、卒論の参考資料となるものも何冊か見つけました。

ぜひ皆さんも、特に目的がなくても、4階の移動書架の間まで入り込んで、どこにどんな本があるか探検してみてください。驚くような本に出会えること間違いなしです！ (日本文化学科)

ひっくり返された道具箱

102DC001 佐藤 貴史

図書館から本を一冊借りてきた。外はすでに真っ暗で、いつも騒いでいる近所のこどもたちも、もう寝ているにちがいない。夕食も食べたし、お風呂にも入った。ちょっと前にきた急ぎのメールには、返事を書いた。もうすることは何もない。残りの時間は、今日図書館から借りてきた本を読むためにある。机の前に座り、コーヒーを入れたカップを邪魔にならない位置におく。1ページ、2ページと読み進めていく。3ページ目の真ん中あたりで、急に文字を追っていた目の動きが止まる。本も閉じてしまった。そして、心のなかで小さくつぶやく。「まったくわからない……」。

みなさんは、本を読んでいてこんな経験をしたことはないだろうか。喜んで借りてきた本を、家で開いてみるとまったく意味がわからないという経験を。わたしには、このような経験がたくさんあるし、今でもよくしている。借りた本が外国語ならば、なおさらだ。最初の文章にある、意味のわからない単語を調べているだけで、どこからともなく嫌気がさしてくる。

こんなとき、わたしは自分の道具箱をひっくり返された気分になる。これまで外国語のものも含めて、人よりは多少本を読んできたつもりである。本のなかにてでくる多くの思想家の名前、彼らが語っている言葉や概念の意味を読み解くための道具を、けっしてたくさんではないけれども手にしているはずだ。ところが、いくら道具をそろえたつもりでも、一筋縄ではいかない本が図書館にはたくさんある。

では、自前の道具ではまったく歯が立たない本に出会ったときに、われわれはどうすればよいのか？ 答えは限られている。自分の経験から言えば、もう一度図書館に行き、「問題の本」と関係がありそうな——実はこの段階でも、どの本が役立つのかさえわからないときがある——タイトルの本を片っ端から読んでいくことだ。自分の道具箱が充実してきたら、ふたたびあの夜に頭にきて放り出してしまった本に向かっていく。今度こそは、自分の道具箱がひっくり返されるという辛い気持ちを味わいたくない。あたり一面に散らばったお気に入りの道具を、もう一度拾い集めるなど

というみじめな思いをしたくない。1ページ、2ページ……と調子よく読み進む。やはり、またわからない箇所突き当たる。でも、以前のようにまったく理解できないというわけではない。じっくり考えてみれば、ゆっくりと頭のなかに話の筋道が浮かんでくる。ページは、確実に終わりへと近づいている。

まったく意味のわからない本に出会ったときに感じる、この工具箱をひっくり返されたような感覚は、わたしにとって大切な瞬間である。まったく理解できない本の存在は、悔しいがわたしの工具箱にはまだ納まっていない道具がたくさんあることを証明しており、読むべき本が図書館に山積みされていることを告げているのだ。限りある時間のなかで、あらゆる知識をため込むことなどできるはずがない。しかし、そうとわかっている、もっとたくさんのことを知り、自分の工具箱をいっぱいになりたい。そのためにも、あえて工具箱をひっくり返されることを期待しながら、図書館に行ってみてはどうだろうか。

(アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科博士後期課程)

図書館のイメージ

102W068 武井友佳

まず初めにこの場をお借りして、新入生の皆さんご入学おめでとうございます。これからの大学生活4年間が、実り多きものになるよう願っています。

今回「ばびるす」の原稿を書かせて頂くことになりましたので、私の図書館について感じることをまとめてみました。

皆さんは図書館と聞くとどのようなイメージがありますか？ また今までに何度、図書館を利用したことがありますか？

本に囲まれて落ち着く、静かで勉強ができる、多くの本があってワクワクする、自分で買わなくても読めるなど、勉強している人や雑誌を読んでいる人がいろいろな理由で出入りしています。このように積極的に利用する人もいれば、逆に図書館は入りにくい、近寄りづらい、別空間といったマイナスのイメージを持っている人もいます。図書館を利用する人でも図書館に対してのイメージは人によって様々です。私のイメージ

はどちらかというと後者のものです。図書館は入りにくいと感じていました。普段図書館はまったくといっていいほど利用していなかったので、このような感覚を持っていたのでしょうか。家の近くに図書館がありながら、行くことはめったにありませんでした。また学校の図書館も1年間に数えるくらいしか利用していませんでした。友達の付き添いで行くぐらいで、本棚の前で眺めているだけでした。また、もともと本は好きな方ではなかったので、図書館に行くこともなく、利用しようという意識さえ持っていませんでした。

ところが、大学に入学したことで、私の図書館に対する考え方が変わりました。今までよりも頻りに図書館を利用することになったのです。私の足を向かわせた理由は、授業のレポートです。書くとなると資料が必要になります。その資料はもちろん教科書やノートを使いますが、それ以外に図書館の資料も必要なのです。インターネットで検索もできますが、自分の考えを深め、まとめるとなるとインターネットからの情報よりも、書籍や文献の方が、自分の考えを基に答えを導き出すことができます。パソコン1つで情報が溢れているインターネットに比べると、図書館での情報や資料探しは時間がかかります。でも1つ1つの資料には重要なことが多く書かれています。私にとっての図書館はレポートをまとめたり資料を集めたり、落ち着いて集中できる空間の場です。ちょうど昨日まで図書館で提出日の迫ったレポートを作成していました。

小・中・高の時は図書館は入りにくい、行きにくいと感じていましたが現在ではそのように感じることはなくなりました。逆に図書館に興味を持ち、身近なものを感じるようになったのです。確かにレポートや課題という目的で利用していることもありますが、このお陰で以前よりも図書館を利用する機会が増え、図書館が私のひとつの居場所となりました。

図書館に入りにくいと感じている人は多いと思います。ほんの少しでもいいので図書館のドアを開いてみてください。今まで感じていた図書館のイメージが大きく変わるかもしれません。

(人間福祉学科)

2004年度図書館の主な動き

図書館は常により良いサービスを求め、少しずつ変化し、進化しています。2004年度の図書館の活動と変化を次にあげてみました。皆さんは幾つ、この変化に気づき、利用しましたか？

- ▶ エレベーターホールに検索用 PC を設置
3、4階のエレベーターホールにスタンドタイプの PC を設置しました。検索用です。
- ▶ Japan Knowledge(総合電子辞書) 導入
百科事典や英和辞典などが大学内の PC から利用が可能。入り口は図書館 H.P.。
- ▶ 大宅壮一文庫雑誌記事索引オンライン導入
一般雑誌の検索が、大学内の PC から利用が可能。入り口は図書館 H.P.。
- ▶ 聞蔵(朝日新聞記事索引) アクセス増加
聞蔵へのアクセスが大学内の PC に広がり、アクセス数が増加しました。入り口は図書館 H.P.。
- ▶ 「American Culture Series II」完結
15~19世紀のアメリカ文化を知る上で貴重な資料。マイクロフィルムで全巻が揃いました。
- ▶ 海外 ILL 開始
イギリスやアメリカの図書館からも本を借りることができるようになりました。
- ▶ ソフトカバーの本に透明なカバーをかけています
売られている本のイメージをそのままに利用してもらおうと透明なカバーをかけ始めました。本を大事に使ってくださいね。
- ▶ DVD ブースと資料の増加
DVD を視聴できるブースが増えました。それに伴い、ソフトの購入もビデオから DVD に変わってきています。
- ▶ 「図書館ハンドブック」発行
図書館をより活用するための手引き書として「図書館ハンドブック」を作りました。希望者に配布しています。希望者はカウンターまで。
- ▶ オリエンテーションクイズ実施
春学期にオリエンテーションクイズを実施しました。成績の良かった参加者の中から44名に記念品をプレゼント。2005年度も予定しています！ぜひチャレンジしてみてください。

● ライブラリー・アシスタント募集 ●

図書館で、働いてみませんか？学生アルバイトを若干名、募集しています。興味がある方は、図書館カウンターまで。

・ライブラリー・アシスタント(PC)

平日 9時~18時30分(3交代制)

業務内容：ノート PC 貸出・メンテナンス等
資格：「コンピュータ基礎 A」修了者

・ライブラリー・アシスタント(夜間・土曜)

平日 17時35分~21時35分

土曜日 13時~17時

業務内容：資料返却・書架整理 等

資格：司書課程受講者が望ましい。

本の紹介

井上真琴著

「図書館に訊け」

(ちくま新書)2004年刊

レポートの課題を出され「どうしたらいいのかしら」と迷っているあなた、この本の著者は「図書館に訊け」と言っています。図書館に訊けというのは図書館の資料で答えを探すこと、また直接的に図書館員へ質問することを意味します。この本を読む私たち図書館員は「図書館員に訊け」と言われていると思い、一寸身が引き締まります。

さて図書館の入口には立ったものの、目の前の本や雑誌の山で「どうしよう」と呆然とするあなた。そこで著者は立ち塞がる資料の塊との付き合い方を知らせるべく、図書館の中へと読者を導き入れます。

この本の著者は現役の大学図書館職員で、図書館には本の並べ方、本の選び方にも仕掛けと工夫があることを知らせ、図書館にある様々な資料の特色、目指す資料の探し方、図書館員へ尋ねること(レファレンス・サービスの利用)を利用者の目線に合わせて紹介しています。語り口は流暢で本にかかわる小さなエピソードがちりばめられ、飽きさせない。この一冊を読み終わり、図書館を見る目が変わり、身近な図書館が楽しく利用できるようになったら、あなたの日常はきっと豊かに変化すること請け合いです。(YI)

*この本は請求番号015 I57の棚にあります。

図書館の統計

I 図書館の推移

年度	区分	学生数	蔵書数	年間受入冊数	開館日数	貸出冊数	図書費
年	人	冊	冊	冊	日	千冊	千円
2004		2,938	249,351	8,287	275	17.5	36,054
2003		2,929	242,368	6,220	275	17.6	36,574
2002		2,931	235,745	6,223	271	18.4	33,805
2001		2,825	228,254	7,948	275	21	34,745
2000		2,549	219,368	6,769	274	18	35,805
1999		2,220	213,691	5,449	281	14.1	28,000
1995		2,137	163,506	13,438	271	21.5	39,700
1990		1,769	96,752	8,195	280	11.8	22,650
1985		1,005	51,000	5,043	284	10.1	12,399
1980		877	36,000	2,599	236	6.8	7,588
1975		763	22,000	4,265	183	3.5	3,754
1970		440	14,000	1,296	239	2.1	1,340
1968		256	10,000	2,838	[247]	[1.4]	[1380]
1967		125	7,000		[247]	[1.4]	[1380]

規程の変更に伴い、1999年以降は消耗品図書も含めた冊数とした。

II 蔵書冊数 (2005年1月31日現在)

	和書	洋書	合計
総記	9,100	1,390	10,490
哲学・宗教	18,426	15,075	33,501
歴史・地理	15,713	3,026	18,739
社会科学(含教育学・福祉)	67,046	19,914	86,960
自然科学(含医学)	9,977	1,309	11,286
工学(含家事)	5,557	498	6,055
産業	4,031	439	4,470
芸術(含楽譜)	7,546	879	8,425
語学	9,769	2,827	12,596
文学	37,750	13,573	51,323
その他	4,213	1,293	5,506
合計	189,128	60,223	249,351

III その他の資料 (2005年1月31日現在)

和雑誌(紀要・寄贈含)	493	カセットテープ	1,234
洋雑誌(寄贈含)	162	ビデオ・LD・DVD	2,315
スライド	34	CD	780
マイクロ資料	4,907	CD-ROM	288

IV 館外貸出冊数(図書): 分類別 (2004年4月1日~2005年1月31日) 学生・院生・履修生のみ

	和書	洋書	合計
総記	524	0	524
哲学・宗教	1,903	61	1,964
歴史・地理	1,110	5	1,115
社会科学(含教育学・福祉)	6,306	17	6,323
自然科学(含医学)	918	3	921
工学(含家事)	359	0	359
産業	276	0	276
芸術(含楽譜)	843	6	849
語学	1,207	15	1,222
文学	3,063	34	3,097
その他	861	7	868
合計	17,370	148	17,518

V その他(他館との協力等) (2004年4月1日~2005年1月31日)

資料借用	113(内、学・院生数33)	視聴覚室利用	2,865
資料貸出	36	特別閲覧室利用	86
複写受付	243	館内ノートPC貸出	4,415
複写依頼	317(内、学・院生数121)	文献検索	29
紹介状発行	12(内、学・院生数8)		
紹介状受付	4		

VI 館外貸出冊数・学科・学年別 (2004年4月1日~2005年1月31日)

	図書合計	雑誌・紀要	CD-ROM	カセット	CD
院・政策2年	70	1	0	0	0
院・政策1年	216	47	1	0	0
院・ア2年	64	0	0	0	0
院・ア1年	84	0	0	0	0
院・後期3年	311	30	0	0	0
院・後期2年	68	0	0	0	0
院・後期1年	240	0	1	0	0
院・科目等	16	0	0	0	0
院小計	1,069	78	2	0	0
政治経済4年	601	3	0	0	2
政治経済3年	459	35	0	0	0
政治経済2年	423	5	0	0	0
政治経済1年	436	24	1	12	0
コミュニティ4年	365	61	0	0	0
コミュニティ3年	279	12	0	0	1
コミュニティ2年	240	2	0	0	0
コミュニティ1年	338	16	0	0	2
欧米文化4年	672	24	0	1	1
欧米文化3年	815	87	0	0	5
欧米文化2年	750	51	2	3	6
欧米文化1年	713	29	1	0	11
日本文化4年	713	10	0	0	13
日本文化3年	1,099	30	0	1	22
日本文化2年	974	62	0	9	20
日本文化1年	606	37	0	0	1
児童4年	938	26	0	2	9
児童3年	1,441	37	2	0	8
児童2年	1,409	19	0	0	2
児童1年	488	16	1	0	1
人間福祉4年	519	38	0	1	10
人間福祉3年	1,047	41	0	2	9
人間福祉2年	569	5	0	0	6
人間福祉1年	523	14	0	0	5
科目等履修	32	6	0	0	0
大学小計	16,449	690	7	31	134
合計	17,518	768	9	31	134

発行・編集 聖学院大学総合図書館
 〒362 8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号
 電話 048 725 5461 FAX 048 780 1096
 E-mail : lib@seigakuin-univ.ac.jp
 URL : http://www.seigakuin-univ.ac.jp/scr/lib.asp